

**航空事故調査報告書**  
**全日本空輸株式会社所属**  
**ボーイング式767型JA8273**  
**愛知県知多半島上空付近**  
**平成2年2月27日**

平成2年5月9日

航空事故調査委員会議決

委員長 武田 峻

委員 薄木 正明

委員 宮内 恒幸

委員 東 昭

委員 竹内 和之

## 1 航空事故調査の経過

### 1.1 航空事故の概要

全日本空輸株式会社所属ボーイング式767型JA8273は、平成2年2月27日、同社の定期686便として広島空港から東京国際空港に向け飛行中乗客1名が胸部に激痛を訴える等の症状を示したので、名古屋空港へ緊急着陸し、病院に収容されたが、既に死亡していた。

### 1.2 航空事故調査の概要

#### 1.2.1 事故の通知及び調査組織

航空事故調査委員会は、平成2年2月28日、運輸大臣から事故発生の通報を受け、当該事故の調査を担当する主管調査官を指名した。

#### 1.2.2 調査の実施時期

平成2年2月28日 事実調査

## 2 認定した事実及び事実を認定した理由

J A 8 2 7 3 は、乗客 1 9 1 名及び乗組員 8 名（運航乗務員 2 名、客室乗務員 6 名）が搭乗し、平成 2 年 2 月 2 7 日 1 9 時 5 1 分東京国際空港へ向け広島空港を離陸した。同機が巡航高度であるフライト・レベル 3 3 0 に向け上昇中の 1 9 時 5 5 分ごろ、男性乗客 1 名から胸が痛いとの申し出が客室乗務員に対してあった。直ちに、医師の協力を求める機内放送が行われたがこれに応じる申し出がなく、客室乗務員は同乗客に対し着衣を緩め、酸素吸入を行う等の措置をとったところ、症状は好転した。その後、同機がフライト・レベル 3 3 0 で東京に向け巡航中の 2 0 時 1 5 分ごろ、同乗客の症状が急変し胸部に激痛を訴え、顔色が変色し、手足が冷たくなる等の様子を示したので、機長は、2 0 時 2 0 分ごろ名古屋空港への緊急着陸を決心し、救急車の要請を行った上で同空港に向かった。同機は、同空港に 2 0 時 3 8 分着陸し、同 4 0 分にランブインした。

乗客の症状が急変してから、客室乗務員は同乗客に対し心臓マッサージを実施し、同乗客は同空港において救急隊員に引き継がれて最寄りの病院に収容された。

着陸後の同乗客の死体検案書には、同乗客は飛行中に急性心不全により死亡した旨が記述されている。

## 3 原因

本事故は、飛行中に乗客が急性心不全により死亡したものと認められる。